

ダークゾーン



[ダークゾーン_下载链接1](#)

著者:[日] 貴志祐介

出版者:祥伝社

出版时间:2011-2-11

装帧:精装

isbn:9784396633585

神の仕掛けか、悪魔の所業か。

地獄のバトルが今、始まる！

戦え。戦い続けろ。

1997年日本ホラー小説大賞、2005年日本推理作家協会賞長編賞、2008年日本SF大賞、2010年第1回山田風太郎賞 各賞撃破！
エンターテインメント界の鬼才が贈る最新長編！

「覚えてないの？ ここ、端島じゃない。こんな場所、ほかにないもの」
その名前に触発されて、いくつかの情景が意識に現れようとした。しかし、その映像はぐにやりと歪み、闇の中に溶け去ってしまう。まるで、この島に関する記憶は、絶対に思い出してはいけない禁忌であるかのように。

「そうか……そうだった。俺も、たしかに、ここへ来たことがある」
長崎市の沖合にある、遺棄された海底炭坑の島——端島。コンクリートの護岸に囲まれて、建物が密集した独特の外観から、軍艦島という通称で知られている。だが、何のために、こんな島へ来たのかは、思い出せない。まして、なぜ、ここで戦わされているのかは、見当もつかなかった。(本文より)

“軍艦島”を舞台に描く、悪夢の世界！

情報科学部学生で日本将棋連盟奨励会に属するプロ棋士の卵である塚田は闇の中で覚醒した。十七人の仲間とともに。場所も状況もわからぬうちに始まった闘い。人間が異形と化した駒、“敵駒として生き返る戦士”などの奇妙な戦術条件、昇格による強力化——闇の中、廃墟の島で続く、七番勝負と思われる戦いは将棋にも似ていた。現実世界との連関が見えぬまま、赤軍を率いる塚田は、五分で迎えた第五局を知略の応酬の末に失い、全駒が昇格する狂瀾のステージと化した第六局は、長期戦の末、引き分けとなった……。

作者介绍:

貴志 祐介（きし ゆうすけ、男性、1959年 - ）は、大阪府出身の小説家、ホラー小説作家。清風南海高等学校、京都大学経済学部卒業。兵庫県西宮市在住。日本SF作家クラブ会員。

学生時代からSFやミステリを愛好。大学卒業後、朝日生命保険に勤務。その傍ら執筆活動を開始、1986年に第12回ハヤカワ・SFコンテストに岸祐介名義で『新世界より』の原点となる短編「凍った嘴」が佳作入選。その後、30歳で退職して執筆・投稿活動に専念[1]。1996年に『ISOLA』（『十三番目の人格 ISOLA』と改題し刊行）で第3回日本ホラー小説大賞長編賞佳作、1997年に『黒い家』で第4回同賞大賞を受賞。

人間の欲望や狂気が呼び起こす恐怖を描いたホラー作品を発表するが、『青の炎』や『硝子のハンマー』（同作品で2005年、第58回日本推理作家協会賞（長編部門）受賞）ではミステリーを、2008年1月発表の1800枚の書下ろし『新世界より』（同作品で同年、第29回日本SF大賞受賞）ではSFも手掛ける。2010年、『悪の教典』で第1回山田風太郎賞を受賞、第144回直木賞候補。

目录:

标签

貴志祐介

贵志祐介

日本文学

类型文学

日本

日文原版

已入

小说

评论

贵志的书都大部头但读起来并不累（将棋术语虽然多不过无视就好了~

いや〜読んだ、読んだ〜久しぶりに貪るように読んだ。あと、そうですね、久しぶりに脳を使った気がするけど（笑）軍艦島から戻ったばかりなので、リアリティがありすぎて（ある意味でXD）、途中で余計に興奮しました（^^ゞ）。でもこの本は、たぶんすんごく好き嫌い分ける本だと思います。あと、頭を相当使うんで、そっちも、苦手な方はたぶん苦手ですね。追伸：貴志先生、最近のスピードはハンパじゃないですが^^ゞ、大丈夫かな.....やはり昨年の対談で刺激が強すぎたかな（爆笑）じゃあ、とりあえずご飯（読み終えたところ、よく食べられるなあと思われがちだけどXD）

八战实在多了点，而且混入太多将棋术语实在头疼。但结局很出彩，淡淡的忧伤，对于主人公来说却是幸福吧……

结尾收得真好

[ダークゾーン_下载链接1](#)

书评

前一阵去看白石老师的写真展的时候，我是以三崎亚纪粉丝的身份去的，所以老实说，观感里面有着文字引导出的魅力，而不单单只是针对白石老师的写真而已的。在那里偶然碰见的OG一直很疼我，逮到我了自然就一起去吃饭了，餐桌上她就说“你小样儿的一直拿モニターの待遇可是十本…

这本的世界观设置有点像《深红迷宫》，个人感觉精致程度上与后者差了一点。不过全篇更重要的应该还是在说一个感情故事吧，差一点的问题也不大。只是我觉得用这么大的设定来说一个格局这么小的故事有点浪费了。另外将棋的规则居然是吃掉的子可以作为己方的棋重新放到棋盘上，…

[ダークゾーン_下载链接1](#)